

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

《 54 》

口から喉に至る口腔の健康は、さまざまな病気の治療やその後の経過にも大きく関わる。県立中央病院では歯科衛生士が栄養や呼吸のサポートチームに加わり、入院患者への口腔ケア回診を実施。医療スタッフへの勉強会も定期的に開き、口腔ケアの重要性と知識を広く伝えている。

認定歯科衛生士の中島由美さんによると、口腔ケアとは口腔清掃と口腔機能回復の大きく二つ。歯磨きや粘膜の清掃などによって口腔内を清潔にすることは、誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの感染症をはじめ、糖尿病やがんの予防につながる。食べる、かむ、飲み込むといった機能を保つことは窒息や認知症予防にも有効という。



中島 由美  
認定歯科衛生士

## 感染症や糖尿病の予防に有効

同病院は口腔ケアの重要性に着目し、2011年から歯科衛生士がNST（栄養サポートチーム）、RST（呼吸サポートチーム）メンバーに参加。チームごとに週1、2回、病棟患者への口腔ケア回診を行っている。他職種が連携することで治療方針に応じた適切なケアを提供できるという。このほか病棟の依頼を受け、呼吸器の使用や抗がん剤、放射線治療などによる口腔トラブルにも対応している。

口腔ケアについて病院全体で共通した知識をもてるよう、口腔ケアについて病院全体で「口は生命維持だけでなく、コミュニケーションや感情表現、歌う、笑うなど豊かな人生を送る上で欠かせない器官」と中島さん。「いつまでもおいしい食べ、楽しく会話をしてQOL（生活の質）を向上させるためにお口の健康を守りましょう」と呼び掛けている。

共通した知識をもてるよう、口

第2、4木曜日に掲載します



口腔ケアに欠かせない歯ブラシや歯磨き剤、保湿剤など。状態に応じた使い分けが必要だ

口腔ケアのチェック方法を示したアセスメントシートも作成した。シートでは唇や舌、唾液、粘膜、歯肉などの観察方法を説明。状態に応じたケア用品の選び方、ケアのポイントを伝授している。シートを活用し、医師や看護師らを対象にした勉強会も定期的に行っている。